

静岡県議会議員

田口 章

後援会
だより

お気軽にどうぞ
昼 053-447-3820
夜 053-440-7100

平成 23 年 6 月 6 日

創ろう！元気な浜松&静岡県

被災地レポート 避難できた人は…



6月2日(木)、民主党・ふじのくに県議団のメンバー7人で、岩手県内を視察しました。視察先は、遠野市、釜石市、大槌町、山田町です。視察先での意見交換内容などをご報告します。

(1) 釜石市(岩手県沿岸広域振興局)

釜石港の公共埠頭、魚市場付近を現地調査しました。

写真は魚市場。巨大な貨物船が岸壁に乗り上げて付近の家に迫っていました。

平成21年、国は釜石港沖の湾口部に全長2kmの防潮堤を設置しました。水深約60mの海底から積み上げた巨大な防潮堤は、海上部の高さも8m幅20mありましたが、今回の津波に耐えることはできませんでした。

防潮堤のおかげで被害を抑えることができたのか、それとも無力だったのか、まだ検証できていませんが、人間の力による防災・減災の限界を感じざるをえません。

(2) 大槌町(大槌町役場(仮設))



最大の被災地のひとつである大槌町では、町役場が倒壊したほか、町長も死亡、副町長も6月に任期切れとなり、以降は総務課長が陣頭指揮を執るそうですが、行政の復興体制が懸念されています。そのような中、静岡県からも8人が自治体の窓口業務支援を行っています。

ガレキの処理は部分的に進んではいますが、まだ復興、復旧には程遠い状況です(写真上)。

お話をうかがった副町長からは、「仮設住宅の建設が徐々に進み7月には入居できる見込み」、「デイサービスやグループホームも併設する予定で、病院への足の確保も検討している」、一方、「コミュニティを大切にしたいが、全員は入居できないので悩ましい」とのことでした。

また、「地域防災計画は、ライフラインの存続が前提になっているが、最悪を想定しないといけない」との指摘をいただきました。原発の被災対策ではありませんが、常にあらゆる事態を想定した備えが必要です。

(3) 山田町(山田町役場)

山田町は居住家屋6101棟のうち、全壊2789棟(45%)を含め、3304棟(54%)が被災しました。町内には8mを越える防潮堤があったが倒壊しました。前述した南隣の大槌町に比べ、ガレキ処理も多少進んでいるようで、「役場が残っているだけ復興もやや早い」とおっしゃっていましたが、厳しい状況に変わりありません(写真下)。

5月23日に「復興支援計画基本案」を策定し、避難者への説明会を開催しています。山田町では、過去の津波被害から、これまでも高台移住を進めてきましたが、今後、集落ごとにさらなる高台移住政策が必要と考えています。説明会の反応としては、“津波被害をださない”ことには理解を示しているようですが、用地確保と現在所有している土地をどうするかが課題で、国の買い上げを希望する声が多いとのことで、

まだまだ時間がかかりそうです。

なお町長が、ご家族のコメントとして次のように話されていたのが印象的でした。

「避難訓練の時に来ていた人は、避難できていた・・・」。

常日頃の備えの大切さを、ここでも痛感しました。



(4) 遠野市(静岡県現地支援調整本部、遠野市稲荷下物資支援センター、遠野市役所)

遠野市の「被災地後方支援活動」は、今回の視察で最も関心が高かったものです。期待どおりさまざまなヒントをいただけてきました。

遠野市は内陸部と沿岸部の結節点にあり、いわゆる“交通の要所”という側面を持っています(沿岸市町までヘリで 15 分、陸路 1 時間程度)。

市では、“今後 30 年以内に 99%の確率で発生する”といわれた宮城県沖地震に備え、平成 19 年度から「後方支援拠点施設整備構想」を進め、同年、津波被害を想定した後方支援訓練を実施しました。

さらに平成 20 年度、東北地方の自衛隊、岩手・宮城県内の自治体、警察、消防など約 18000 人、車両 2300 台、航空機 43 機を集結し、空前の規模で訓練を開催しています。

今回、訓練で実施したことが現実化しました。

震災直後、遠野市も市役所本庁舎が全壊するなど被災しましたが、初動体制をすばやく構築し、13 日までに自衛隊や警察消防など 2500 人を超える支援部隊を受け入れ。現在も民間企業やボランティアなど 5000 人規模で受け入れており、被災地支援の中心的役割を果たしています。

静岡県も、3 月 20 日、遠野市に先遣隊職員を派遣。3 月 26 日に現地支援調整本部を設置し、継続支援体制を構築しました。6 月 2 日時点では 26 人が活動していました。

避難者の受け入れを行う自治体はたくさんありますが、遠野市は後方支援拠点として積極的支援を行っており、当初 50 日間の被災地への主な救援物資は、おにぎり 14 万個、米 38 トン、水・飲料(2ℓボトル)106000 本、燃料 63000ℓなどとなっています。

加えて 3 月 27 日、社会福祉協議会を中心に「遠野被災地支援ボランティアネットワーク」を立ち上げるとともに、4 月 8 日、プレハブ施設の「災害ボランティア支援センター」を建設。全国からのボランティアを受け入れ、人的支援の拠点にもなっています。

本田市長からは、「とにかくスピードが大切」、「タイミングによって必要な支援は変わる」、「日常から後方支援の重要性を情報発信し、市民の理解を得ていたことがよかった」など、普段からさまざまな想定の下に備えておくことの重要性をうかがいました。

また「被災当初、県外から支援物資が続々入ってきたが、出すことができなかった。静岡県から支援していただいたスズキの軽トラは、まさに“命をつなぐ軽トラ”だった」との話もいただきました。

★後方支援の重要性を再認識

今回、後方支援の重要性を再認識すると同時に、県と市の役割分担についても多くのことを考えさせられました。

こうした後方支援拠点づくりと活動プログラムは、東海地震への備えとしても非常に重要です。また、これは市町が独自にやるのではなく、県が“広域行政の役割”としてやらねばならないことであると確信しました。

被災当時の新聞記事によると、被災地では安否情報がなかなかわからない中、「遠野に聞けばわかる」ということで問い合わせが殺到したとのことでした。本来であれば県がバックアップ機能を果たすべきでしょう。

また、震災直後、遠野市民がボランティアで被災地におにぎりを送ろうとしたとき、県からあった指示は「食中毒に注意するように」だったそうです。現場を持つ市町と県の意識の違い、日常と非日常の対応をどうすべきか、も再点検すべきです。

静岡県は防災先進県であり、今回の被災地支援についても、他県に長じる部分が多々あり、事実、遠野市長をはじめ多くのみなさんから感謝の声を聞きました。

しかし一方で、震災を踏まえて県のシステムを謙虚に再確認する必要があります。間違っても「食中毒に…」なんて指示を出すのではなく、スピーディに広域バックアップ体制を構築できるよう、今回の被災地視察を活かし、今後の県政改善につなげていきます。

○最近のブログから「生しらす丼」(5/21)



お昼ごはんは「生しらす丼」。今朝買ったものをさっそくいただきました。

炊き立てご飯の上に生しらすをどっさり乗せて、卵黄とおろしショウガ、適当に細かくちぎった浜名湖のまぜのり、醤油をかけるだけ。

私の自作なので見た目は

良くありませんが、さすが素材の良さ、新鮮なしらすがおいしかったです。

「えんばい朝市」は、8月まで毎月第3土曜日に開催されます。「知らなかった・・・」という方は、ぜひ来月以降の開催をお楽しみください。

【日々の活動はブログをご覧ください】

★おすすめブログ記事①「浜松目線で県政を見る」(5/24)

<http://taguchi-hamamatsu.cocolog-nifty.com/blog/2011/05/524-fd16.html>

*静岡県 5月補正予算の財政的課題をぜひご覧ください。

★おすすめブログ記事②「メルマガ 6月号」(6/1)

<http://taguchi-hamamatsu.cocolog-nifty.com/blog/2011/06/661-c868.html>

*今月の「後援会だより」はいつもの月と違い「メルマガ」とは全く異なる内容です。インターネットが使える方はぜひご覧になってください。

1. 5月臨時会トピックス
 - (1) 議会運営について
 - (2) 補正予算より
 - (3) おまけ(浜松市議会を外から見て)
2. 企業の土日稼働と子育て支援

★創ろう！元気な浜松&静岡県

田口章 で検索

【あとがき】先月は「浜岡原発停止」という“大変化”がありました。県民の安心・安全確保を優先した施策ですが、今後の産業への影響、エネルギー政策や温暖化対策など多くの課題があります。

これと平行して、自動車産業の土日操業による家庭生活への影響もでてきますが、各自治体の市議会議員と連携を取りながら、できる限りの行政支援を進めていきたいと思えます。

5月末は震災で経済的影響を受けている伊豆半島の観光産業の現状を視察しました。また今月は三陸の被災地に行きました。今後しばらくは震災のさまざまな分野への対応に取り組むこととなります。

国を挙げて被災地復興や経済対策を打っていかねばならないのに、今の国政は「いったい何をやっているのか」と思わざるを得ません。

西郷隆盛の遺訓に「功労があるからといって見識のないものに地位を与えることは国家崩壊のもと」というのがあります。次のリーダーは「功労」でなく「見識」で選ばないといけません。

5月の活動報告

- 02(月) 議会説明会(初登庁)
- 04(水) 錦タワー視察
- 07(土) 入野地区社協総会
入野地区自治連総会
- 08(日) 湖西地区メーデー
- 09(月) 会派総会
放課後児童会役員会
- 11(水) 会派政策調査会
- 12(木)~13(金)
地方自治経営学会(東京)
- 13(金) 会派政策調査会
- 14(土) 青少年健全育成会総会
PTA 総会
地域団体連絡会
- 16(月) スズキ協講演会
- 18(水) JAM ふれあいトーク
- 20(金) 5月臨時会(本会議・委員会)
- 21(土) えんばい朝市(舞阪町)
- 22(日) 浜松市津波避難訓練
- 24(火) 部局事業概要説明会
浜松市行革審傍聴
- 25(水) 部局事業概要説明会
- 27(金) 自動車総連 議員連絡会
- 29(日) 老人クラブ連合会総会
静岡県 ALS 協会総会
- 30(月)~31(火)
伊豆視察(観光政策・地域経済)

6月の活動予定

- 01(水)~03(金)
岩手県視察
- 07(火) 航空自衛隊浜松基地視察
- 08(水) 教職員組合地域ネットワーク会議
入野地区自治連会議
- 09(木) 新人議員県内視察研修会
- 11(土) 遠州織物シンポジウム
ビーチフットボール東海大会
- 12(日) 浜松市水防演習
- 14(火) 会派議員総会、研修会
- 18(土) 教職員組合大会
スズキ労組イベント
- 19(日) スズキ労連ヤングリーダー研修会
- 23(木) 本会議(6月定例会開会)
- 28(火) 本会議
- 29(水) 本会議
- 30(木) 本会議